

東日本大震災復興支援 生活支援相談員ニュースレター~VOL. 32~

平成30年8月発行

【発行】

社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会 地域福祉企画部 コミュニティ振興グループ
岩手県盛岡市三本柳 8-1-3 ふれあいランド岩手内 TEL:019-601-7042 FAX:019-637-7532

沿岸部の生活支援相談員リーダーが集まり情報交換

平成30年8月10日(金)の10時30分から、大槌町文化交流センター(おしゃっち)で、第1回生活支援相談員リーダー等情報交換会を開催し、沿岸部の社会福祉協議会の生活支援相談員リーダー21名が参加しました。

午前中は県社協から、支え合いマップマニュアルについて説明しました。続いて「アセスメント基準の適用に関すること」をテーマに、グループごとに情報交換をしました。各市町村社協でアセスメントの適用に取り組み、良かったことや課題など、様々な意見や感想が出ました。



☆ 良かったこと

- ・ 振り返りができた。改めて重点・通常・終了の見守り区分の判断の根拠が明確になった。
- ・ 聞きづらかった生計や収入に関することを聞き取るきっかけになった。
- ・ 県内統一されたアセスメントなので、転入・転出の際に情報として活用できた。

★ 課題

- ・ 相談員によって判断の見方に差がある。
- ・ 見守り区分が下がった人が増え、整理はできたが、活動に結びついていないケースがある。
- ・ アセスメント項目で判断しづらい箇所があった。(心理面、アルコールの量等)



午後はフリートークで、支え合いマップの進捗状況や、サロンの運営について等、様々な情報交換を行いました。「マップを作ったままではなく、更新・見直しをしていかなくては」「住民主体でサロンを運営するのは難しいが、社協としてどうしたいのか、中長期的な目標を立てることが重要」等、お互いに助言し合いました。また、チーム内での情報共有の難しさやチームの運営など、リーダーならではの悩みについても共有し、「不具合があれば、皆でワークをしたり、振り返りの時間をもって解消すべき」等のアドバイスも出ました。

日頃の悩みや課題を助言し合い、新たな気づきを得るなど、有意義な情報交換会となりました。

スキルアップ事例検討会 開催 ～事例検討の着眼点と必要性、進行方法を学ぶ～

平成 30 年 8 月 24 日（金）～25 日（土）、釜石地区合同庁舎でスキルアップ事例検討会を開催し、市町村社会福祉協議会の生活支援相談員等 34 名が参加しました。

神奈川県立保健福祉大学名誉教授の山崎美貴子氏、淑徳大学総合福祉学部准教授の山下興一郎氏を講師に、被災された方々の住まいの移行期の後期である現状を把握し、この時期における事例検討の着眼点と必要性、個別支援と地域支援双方の視点を持ちながら支援方法を組み立てる進行方法等を学びました。



山崎先生、山下先生の講義では、「生活支援相談員は最後まで被災者に歩幅を合わせて寄り添う人」、「日々の実践事例をその場からひとたび離れた場所で“ひっかかる”“ひっかける”癖をつけること」、「まとめ方・進行の仕方として、1つ1つのケースだけではなく、個人、家族、地域社会全体を俯瞰しながら刻むこと」等の話がありました。

「やって良かった」「次もやろう」と思える事例検討を行うには、進行役が重要な役割を果たします。参加者からは、今日学んだことを実践していきたいという感想が多くありました。

災害公営住宅の動き ～山田中央団地情報共有会～

平成 30 年 8 月 27 日（月）の 18 時 30 分から、山田中央団地集会所で定例情報共有会が開催され、山田中央団地役員 13 名、支援団体 5 名が参加しました。

今回は、8 月 20 日（月）に開催された盆踊りの振り返りを行いました。「踊りの指導者からの呼び掛けで、後日ご苦労様会（打ち上げ）が行われた」、「防犯防災部が階段で誘導灯を持って注意を促していたため、けが人ゼロだった」、「事前の踊りの練習も含め楽しかった」、「初めての試みとしては上出来、この経験が来年につながる」等の話が挙げられました。皆、笑顔で感想や意見を出し合い、盆踊りがとても楽しかった様子が表れていました。



また、来年に向けてのアイデアとして、実施時期や食事の提供、最初と最後に全員で集まり挨拶をする等の意見が出されました。

次回の情報共有会は 9 月 25 日（火）18 時 30 分から行われる予定です。